平成25年11月12日
株式会社福島銀行

平成２５年９月中間決算の概要

Ⅰ．　平成２５年度上期の主要施策　・・・・・・・・・・・・・　1ページ
Ⅱ．　平成２５年９月中間決算のポイント　・・・・・・・・・　2ページ
Ⅲ．　営　　業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3ページ
Ⅳ．　損　　益　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8ページ
Ⅴ．　財務内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11ページ
Ⅵ．　今期の業績予想　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14ページ
Ⅶ．　『ふくぎん 本気（マジ）宣言』（中期経営計画）　15ページ
（付）営業店一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22ページ

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て

Ⅰ．平成25年度上期の主要施策

福島銀行

○ 中期経営計画『ふくぎん 本気（マジ）宣言』に沿って以下のような施策を実施。

（主として企業向け）

1．お客様の経営課題の解決支援を行う「提案営業」の取組みを強化。
2．お客様の経営改善支援、事業再生支援への取組みを強化。
3．『再生可能エネルギー発電事業支援融資』の取扱いを開始（5月）。

（主として個人向け）

4．高齢のお客様向けサービスの強化（『シニアのお客さまへの本気（マジ）宣言‼　第二弾』＜5月＞）。
5．非対面営業チャネルの充実（投資信託のインターネット取引開始＜4月＞、海外送金インターネット受付サービス取扱い開始＜9月＞）。
6．新商品発売（『みんなの尾瀬』金利倍々キャンペーン開始＜5月＞、フリーローン『イーベ』取扱い開始＜6月＞、ペット保険を県内の金融機関で初めて取扱い開始＜9月＞）。

（社会貢献）

7．社会貢献への積極的な取組み推進（こども向けワークショップの開催 ＜7月～＞、福島わらじまつりに一般市民の皆様と参加＜8月＞、公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金の助成先募集＜9月＞）。

（その他）

8．高齢のお客様や視力の弱いお客様などの利便性向上のために、当行のホームページに『音声読み上げサービス』を導入（4月）。
9．当行のホームページやインターネットバンキングを利用されるお客様をフィッシング詐欺被害からお守りするため、フィッシング対策ソフト『PhishWall（フィッシュウォール）プレミアム』を導入（4月、＜インストール及びご利用は無料＞）。
10．お客様の利便性の向上、災害時の通信手段の強化等のため、タブレット「光ｉフレーム」を全店ロビーに配置（5月）。

Ⅱ．平成25年9月中間決算のポイント

福島銀行

営　業

○ 預金残高は流動性預金を中心に3月末比 331億円の増加。
○ 預り資産残高は3月末比横ばい。販売額は保険販売を中心に24年度下期比 16億円の増加。
○ 貸出金は3月末比 9億円の増加。
○ 有価証券は債券を中心に3月末比 51億円の増加。
○ 利鞘は縮小傾向。

損　益

○ 経常収益は運用利回りの低下等により前年同期比 2億円減少したものの、与信関連費用の減少から経常利益は同3億円の増益、中間純利益も同 2億円の増益。

財務内容

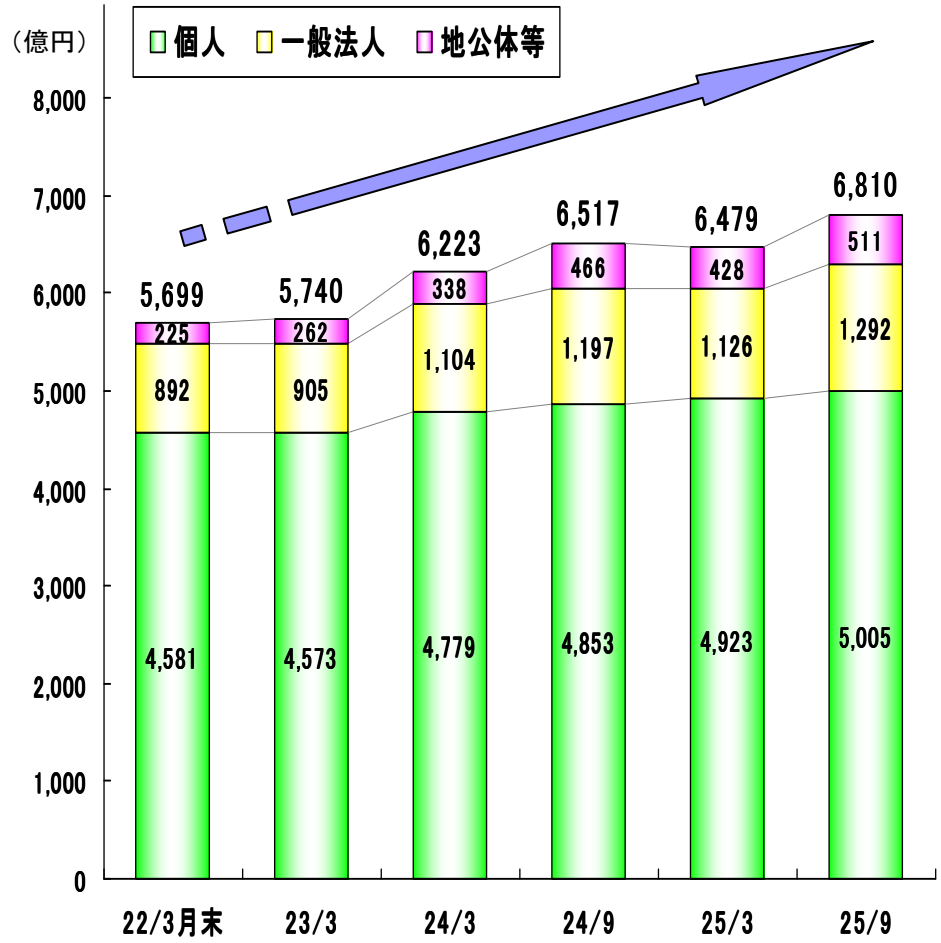
○ 金融再生法開示債権比率は 3．04%に低下（3月末 3．45%）。
○ 自己資本比率は 10．27%に上昇（3月末 9．79%）。Tier Ⅰ 比率は 7．77%に上昇（同 7．28%）。

Ⅲ. 営　業　　(1)預　金（※NCD含む）

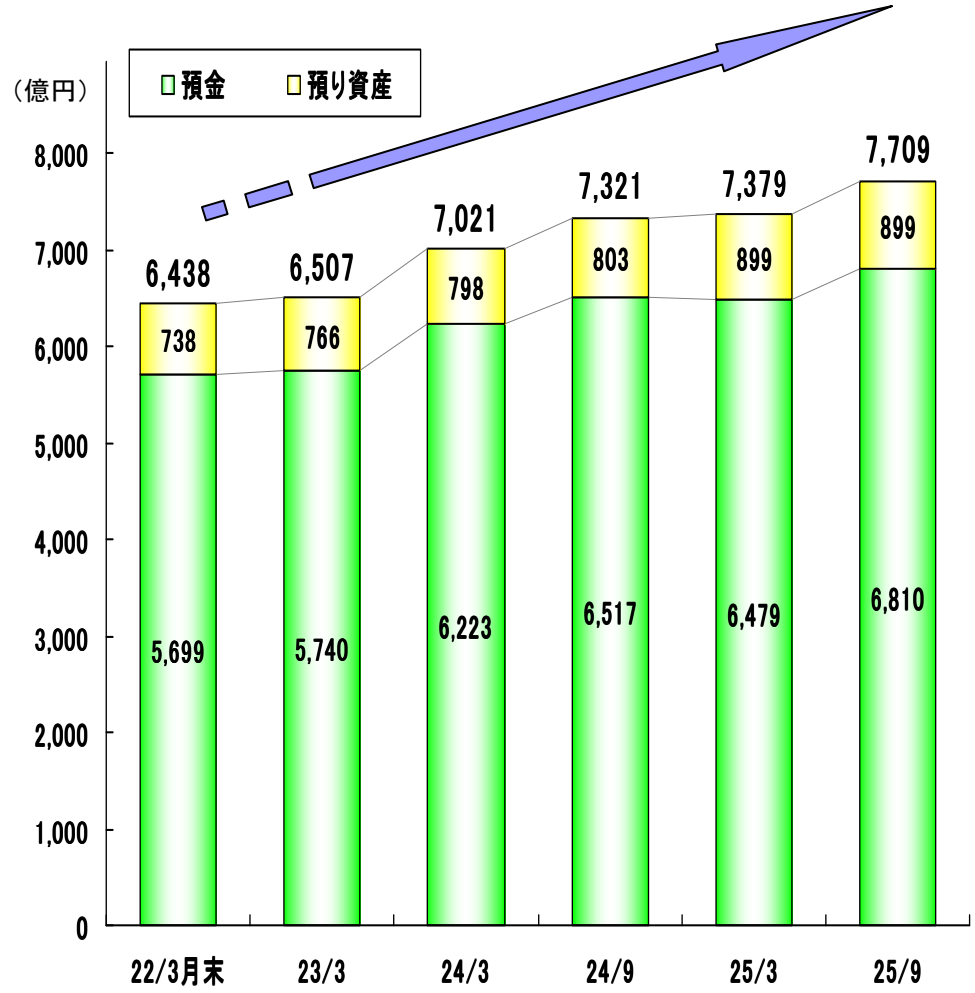
福島銀行

○ 預金残高は 6，810億円。賠償金等の流入継続から3月末比 331億円、5．1%の増加。
　－個人預金が 81億円、一般法人預金が 166億円、地公体等預金が 82億円それぞれ増加。
　－流動性が 310億円の増加、定期性も 20億円の増加。
○ 預り資産を含めた残高は 7，709億円（3月末比 330億円増加）と、過去最高を更新。

預金残高



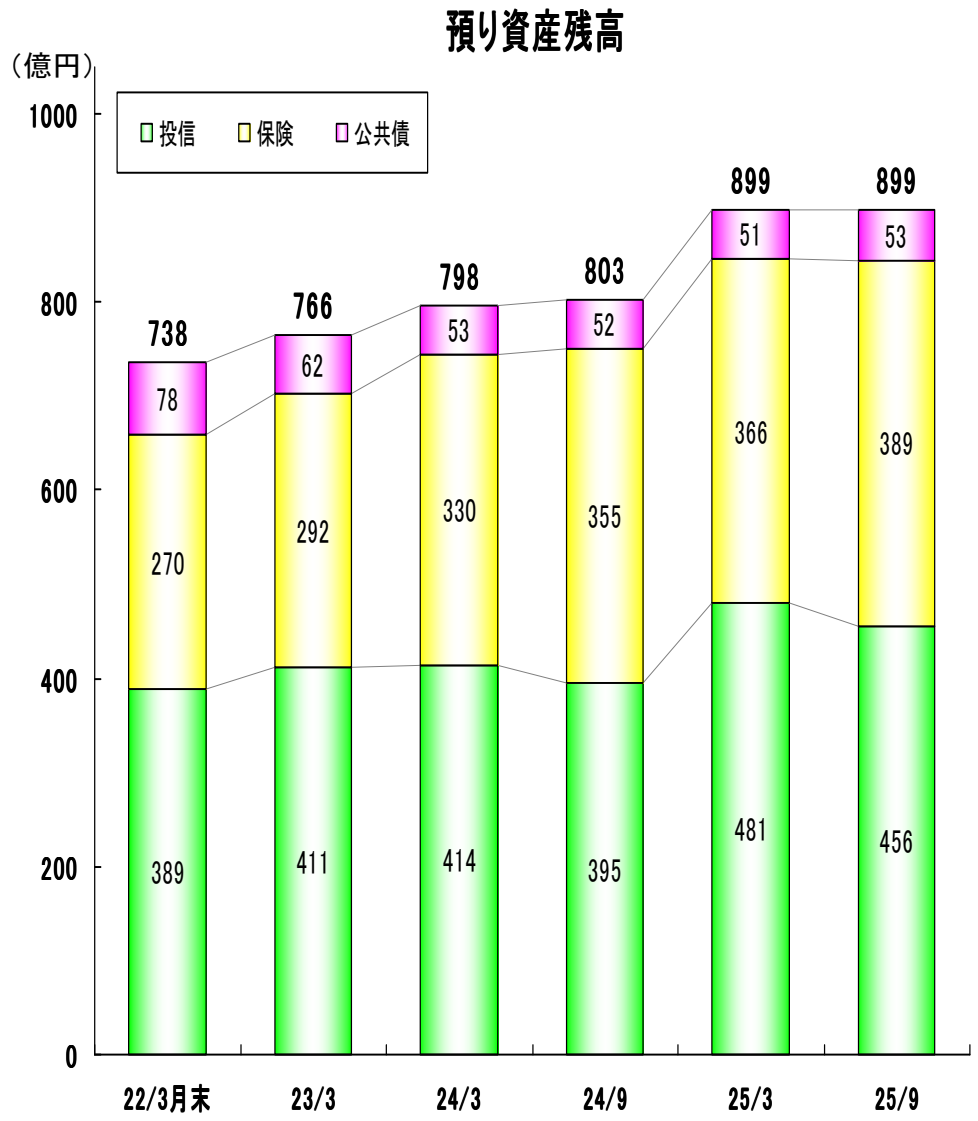
預金＋預り資産残高



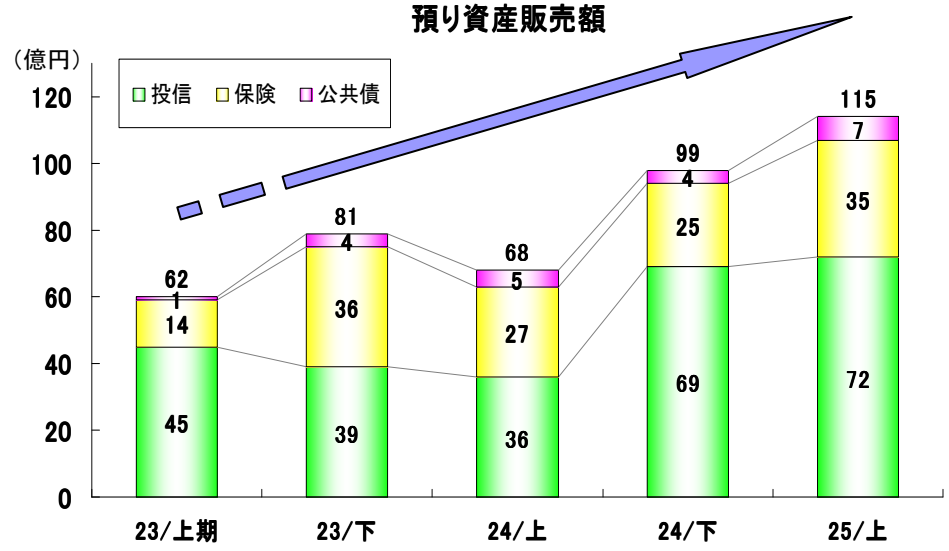
Ⅲ. 営　業　　(2)預り資産

福島銀行

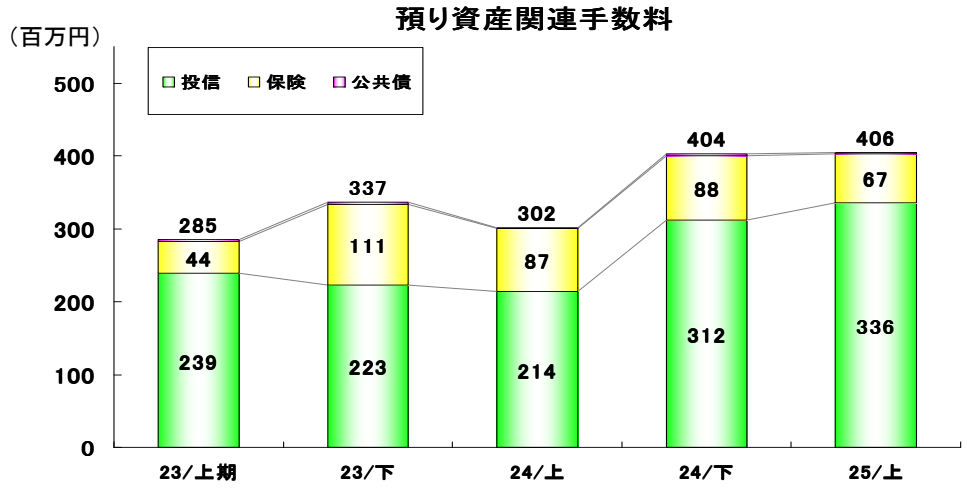
○ 預り資産残高は　899億円、3月末比横ばいで推移。



○ 販売額は、24年下期比 16億円の増加。



○ 預り資産販売額の増加に伴い、手数料収入も高水準で推移。

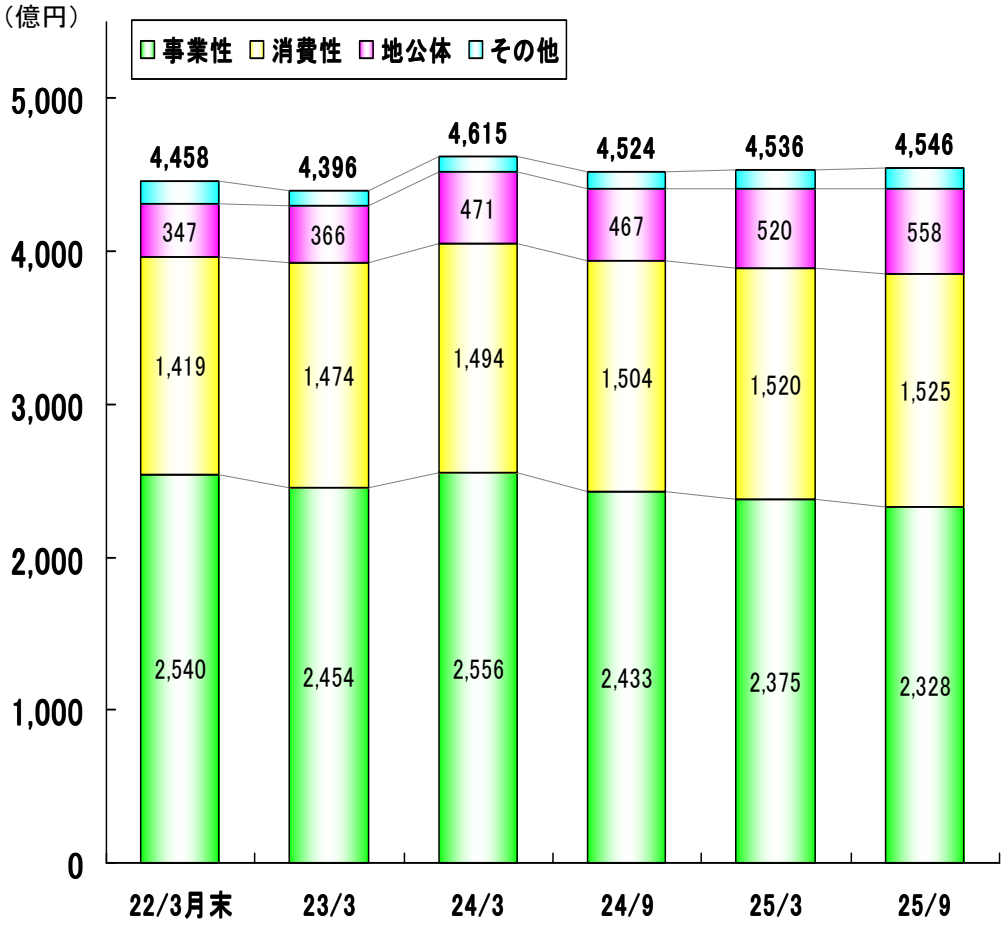


Ⅲ. 営　業　　(3)貸　出

福島銀行

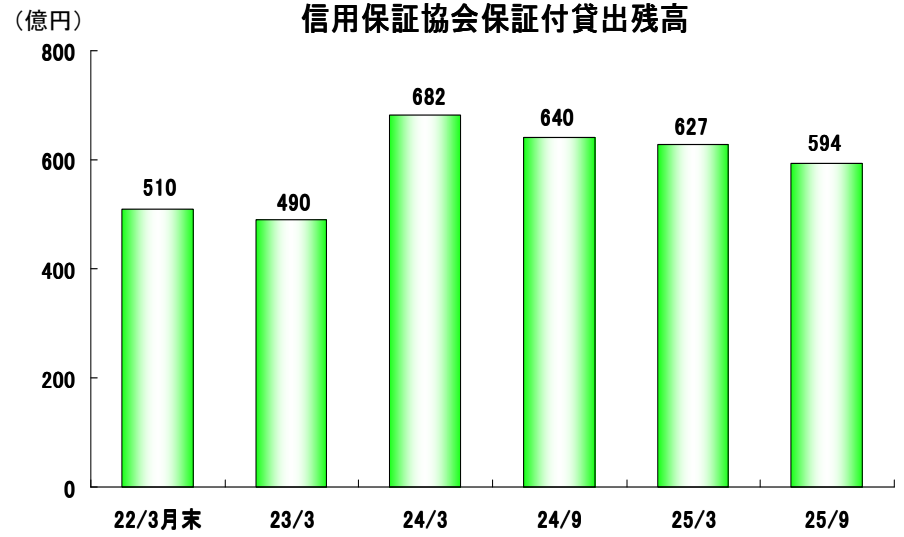
○ 貸出残高は 4，546億円。3月末比 9億円、0．2%の増加。
　ーうち事業性貸出は 46億円の減少。賠償金流入に伴う繰上げ返済や手元資金増加による資金需要の伸び悩み、震災関連制度資金需要が一巡したことが主因。
○ 9月末の預貸率(末残)は 66．8%(3月末 69．4%)に低下。

貸出残高



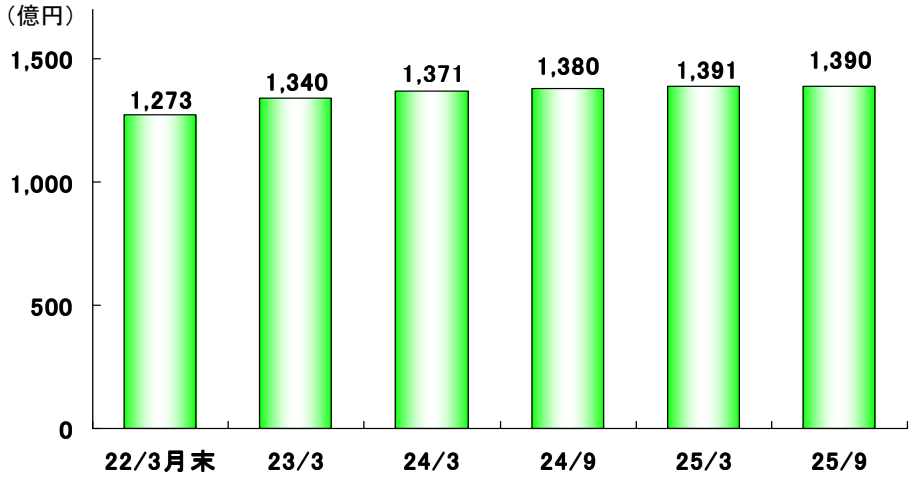
○ 信用保証協会付貸出は 33億円の減少。

信用保証協会保証付貸出残高



○ 住宅ローンは 1億円の減少。

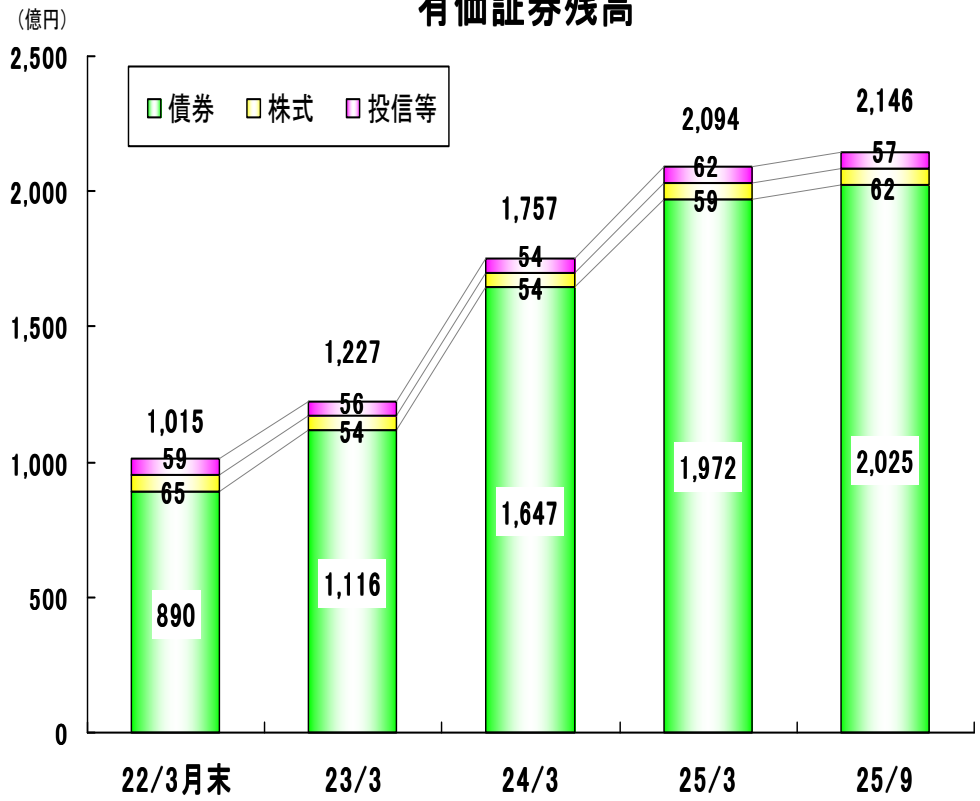
住宅ローン残高



福島銀行

○ 有価証券は債券を中心に３月末比 51億円、2．4%増加し、９月末残高は 2，146億円。
○ 預証率（末残）は、預金が大幅に増加したため 31．5%と、３月末（32．3%）との対比では若干の低下。
○ 債券のデュレーション（残存期間）は ４．１年とやや短期化（３月末 ４．６年）。
○ 「その他有価証券」の含み益は、長期金利が ３月末に比べ上昇したため 28億円に減少（３月末 34億円）。

有価証券残高



保有債券の内訳

（単位：億円）

		上期中増減		25/9月末残高	
			24/上期		24/9月末比(%)
発行者別	国内債	63	202	1,881	18.5
	うち 国債	▲ 10	69	1,123	14.9
	事業債	22	109	427	18.8
	外国債	▲ 10	▲ 91	144	▲ 15.5
残存期間別	1年未満	17	▲ 86	81	45.9
	1年以上5年未満	60	78	1,183	15.2
	5年以上10年未満	▲ 12	119	751	18.5
	10年以上	▲ 12	▲ 0	8	▲ 78.6
合計		53	110	2,025	15.1

保有有価証券の含み損益（「その他有価証券」ベース）

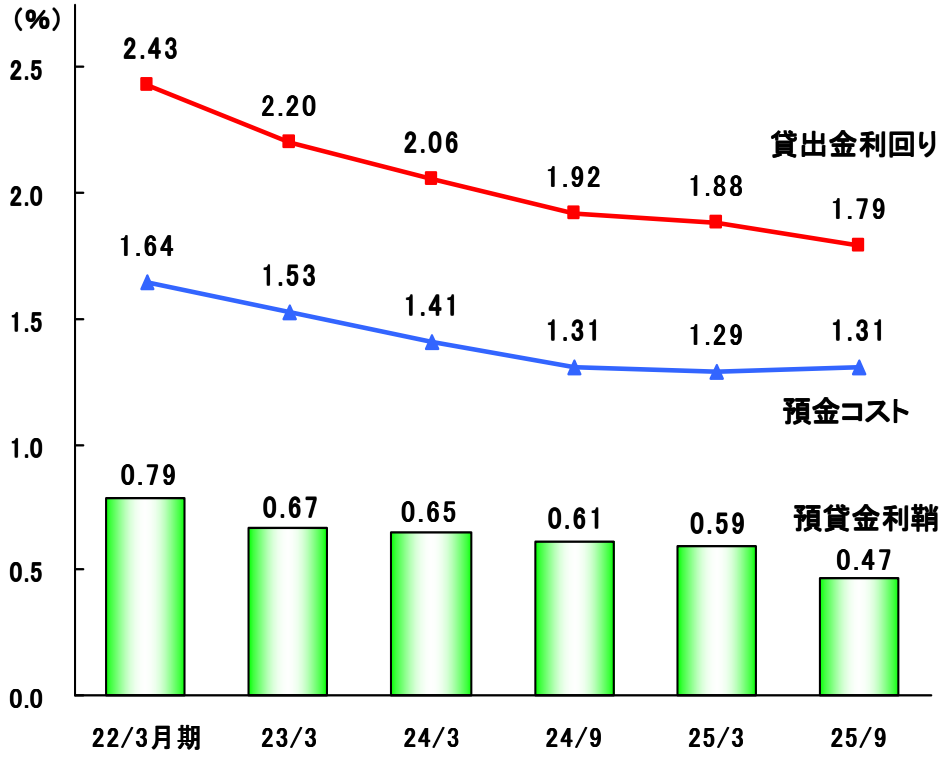
（単位：億円）

	合計	債券	株式	投信等
23/3月末	▲ 19	▲ 2	▲ 5	▲ 10
24/3月末	▲ 2	7	▲ 2	▲ 7
25/3月末	34	26	6	2
25/9月末	28	16	10	1

福島銀行

○ 預貸金利鞘、総資金利鞘は、運用利回りの低下を主因にともに低下傾向。

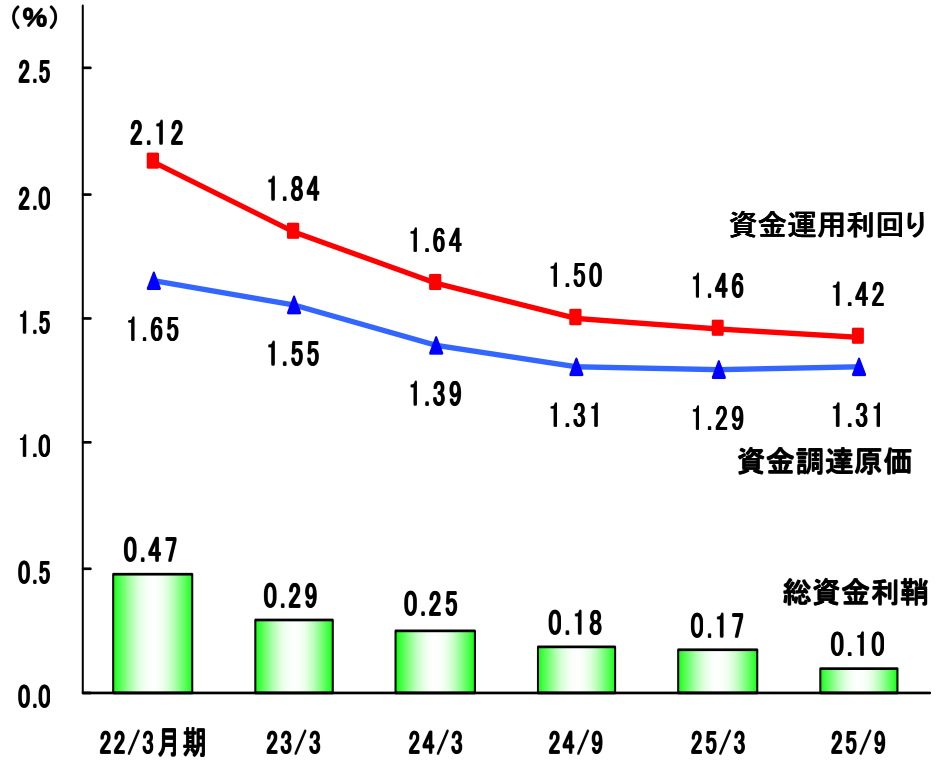
預貸金利鞘



(参考)預金利回り

22/3月期	23/3	24/3	24/9	25/3	25/9
0.27	0.19	0.14	0.12	0.11	0.08

総資金利鞘



(参考)有価証券利回り

22/3月期	23/3	24/3	24/9	25/3	25/9
1.45	0.83	0.77	0.70	0.68	0.78

Ⅳ. 損　益　　(1)業務純益・経常利益・中間純利益

福島銀行

○ 経常収益は 68億円と、前年同期比 2億円の減少。

○ 業務純益は 10億円と、前年同期比 1億円の減少。

　－ 業務収益は、貸出金利の低下による貸出金利息の減少を主因に前年同期比 2億円の減少。

　－ 業務費用は、営業経費が増加したものの、預金利息の減少や債券関係損の減少により、前年同期比 1億円の減少。

○ 臨時損益は与信関連費用の減少や株式等償却・売却損が発生しなかったため、前年同期比 4億円の増加。

○ この結果、経常利益は 16億円と前年同期比 3億円の増益、中間純利益も 11億円と同 2億円の増益。

※経常収益 ・・・一般企業の売上に該当

※業務純益 ・・・一般企業の営業利益に該当

※コア業務純益 ・・・ 業務純益から債券関係損益と一般貸倒引当金繰入額を除いたもの

（単位：億円）

	25/9月期	24/9月期	前年度比
経常収益（①＋⑦）	68	71	▲ 2
業務収益①	60	62	▲ 2
うち貸出金利息	40	42	▲ 2
うち有価証券利息	8	6	2
うち受入手数料	9	9	0
うち債券関係益②	1	4	▲ 2
業務費用③	50	51	▲ 1
うち預金利息	2	3	▲0
うち支払手数料	5	5	0
うち一般貸倒引当金繰入④	－	－	－
うち債券関係損⑤	0	3	▲ 3
うち営業経費	40	38	2
うち人件費	19	18	1
うち物件費	18	17	1
業務純益⑥（①−③）	10	11	▲ 1
コア業務純益（⑥−（②−⑤）＋④）	8	10	▲ 1
臨時収益⑦	8	8	▲0
うち貸倒引当金戻入益	3	5	▲ 1
うち償却債権取立益	3	0	2
臨時費用⑧	2	7	▲ 5
うち貸出金償却・売却損等	1	2	▲0
うち株式等償却・売却損	－	4	▲ 4
臨時損益⑨（⑦−⑧）	5	0	4
経常利益⑩（⑥＋⑨）	16	12	3
特別損益⑪	▲ 1	▲0	▲ 1
税金等⑫	3	3	▲0
中間純利益（⑩−⑪−⑫）	11	8	2

Ⅳ. 損　益　　(2)与信関連費用

福島銀行

○ 25年度上期の与信関連費用は、倒産が少なかったこと等から貸倒引当金が戻入となり、▲186百万円。

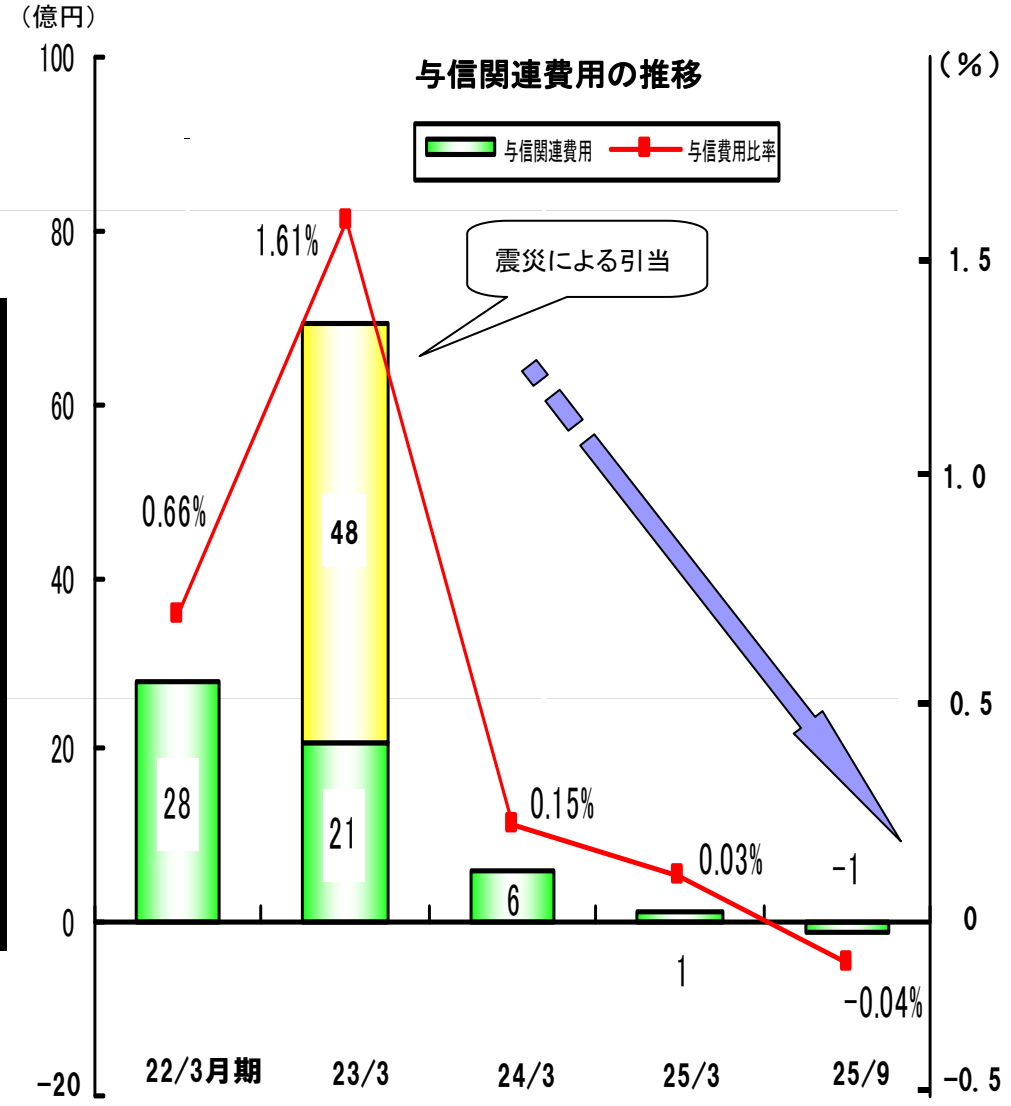
○ 与信費用比率は－0．04%（年率換算）まで低下。

※与信費用比率＝与信関連費用÷貸出金平残

与信関連費用の内訳

（単位：百万円）

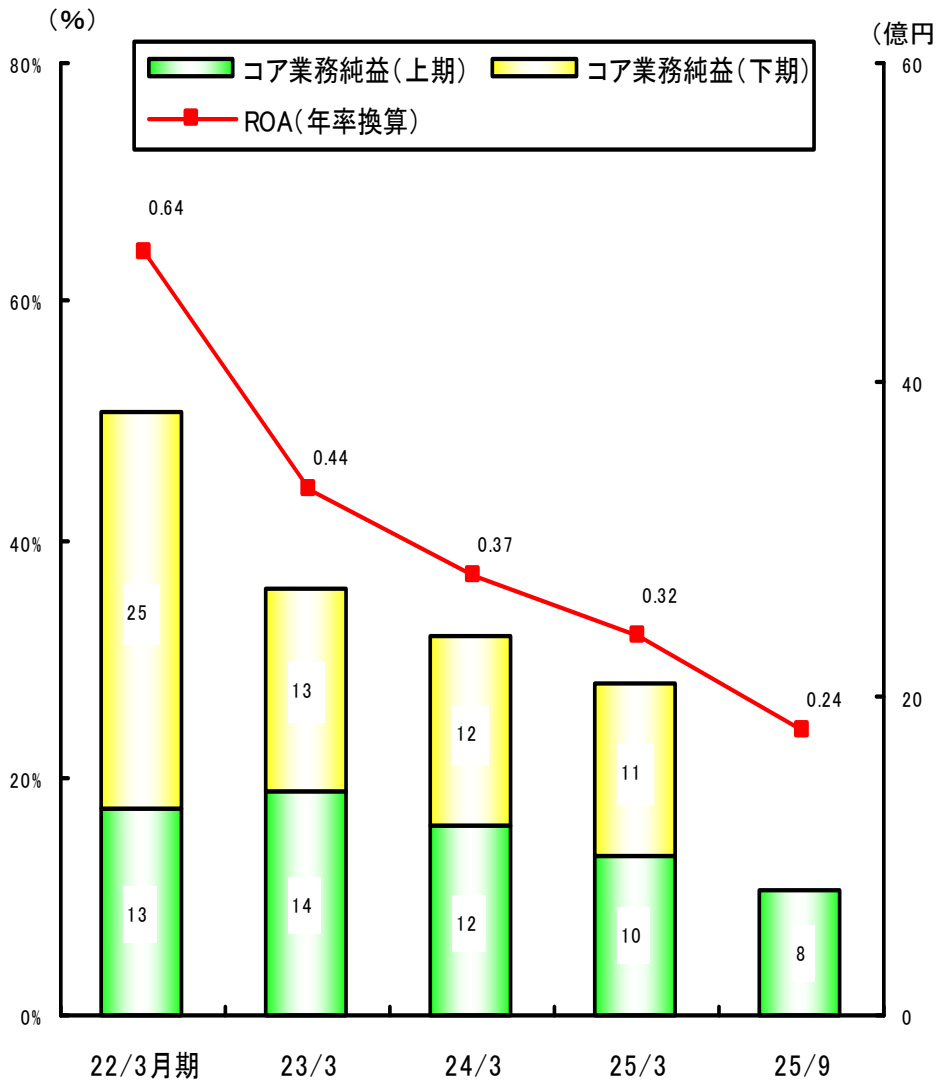
	24/3月期	25/3月期	25/9月期
貸倒引当金繰入①	－	－	－
貸出金償却②	1,094	978	134
債権売却損等③	306	13	－
貸倒引当金戻入④	735	818	320
震災による貸倒引当金繰入⑤	－	－	－
与信関連費用 (①+②+③−④+⑤)	665	173	▲186



福島銀行

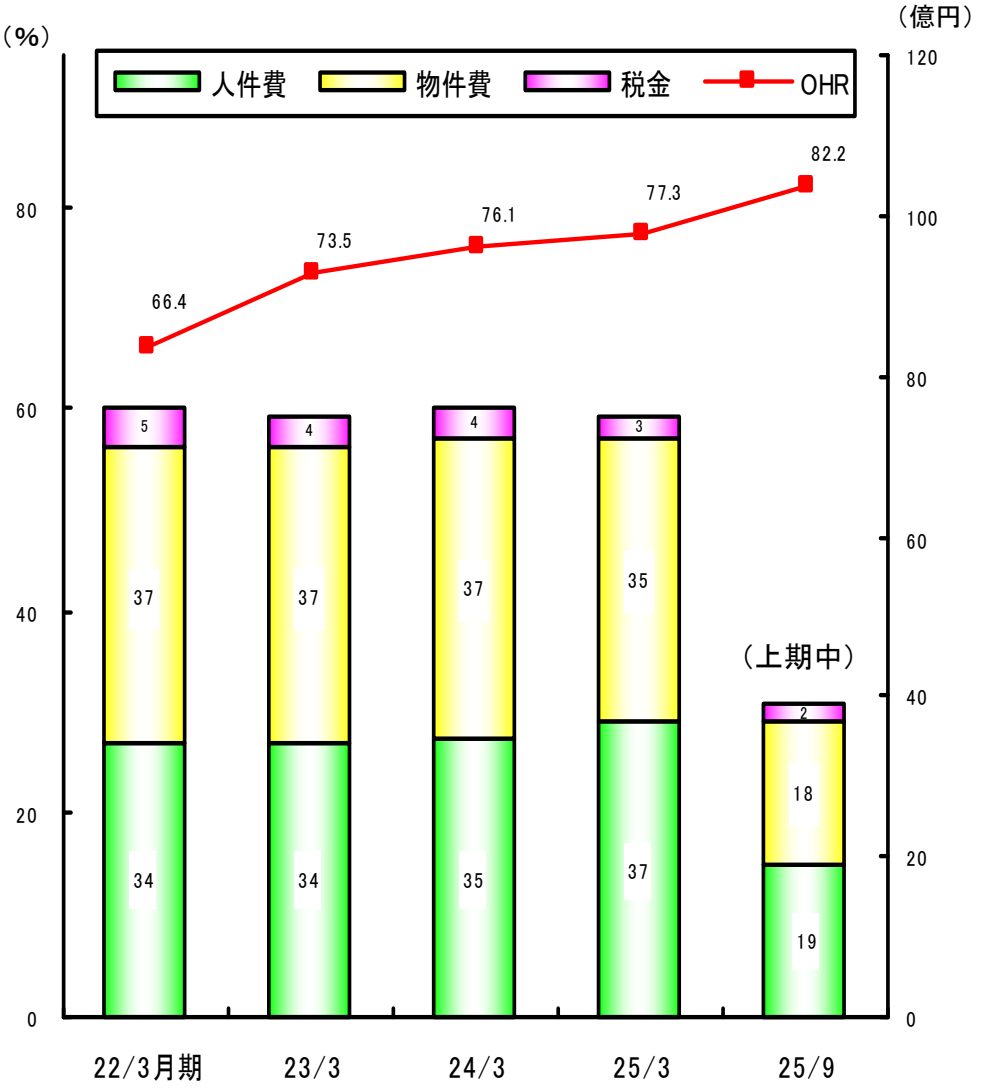
コア業務純益とROA

○ 上期中のROAはコア業務純益の減少を主因に低下。



経費とOHR

○ OHRはコア業務粗利益の減少により上昇。



Ⅴ. 財務内容　　(1)金融再生法開示債権

福島銀行

○ 金融再生法開示債権（※）は、復興関連需要によって企業の業況が改善して新たな倒産が減少したことに加え、返済が進んだことにより、3月末比 18億円の減少。

○ 金融再生法開示債権比率も 3．04％（ピーク時は平成14年9月期 19．6%)に低下(3月末 3．45%)。

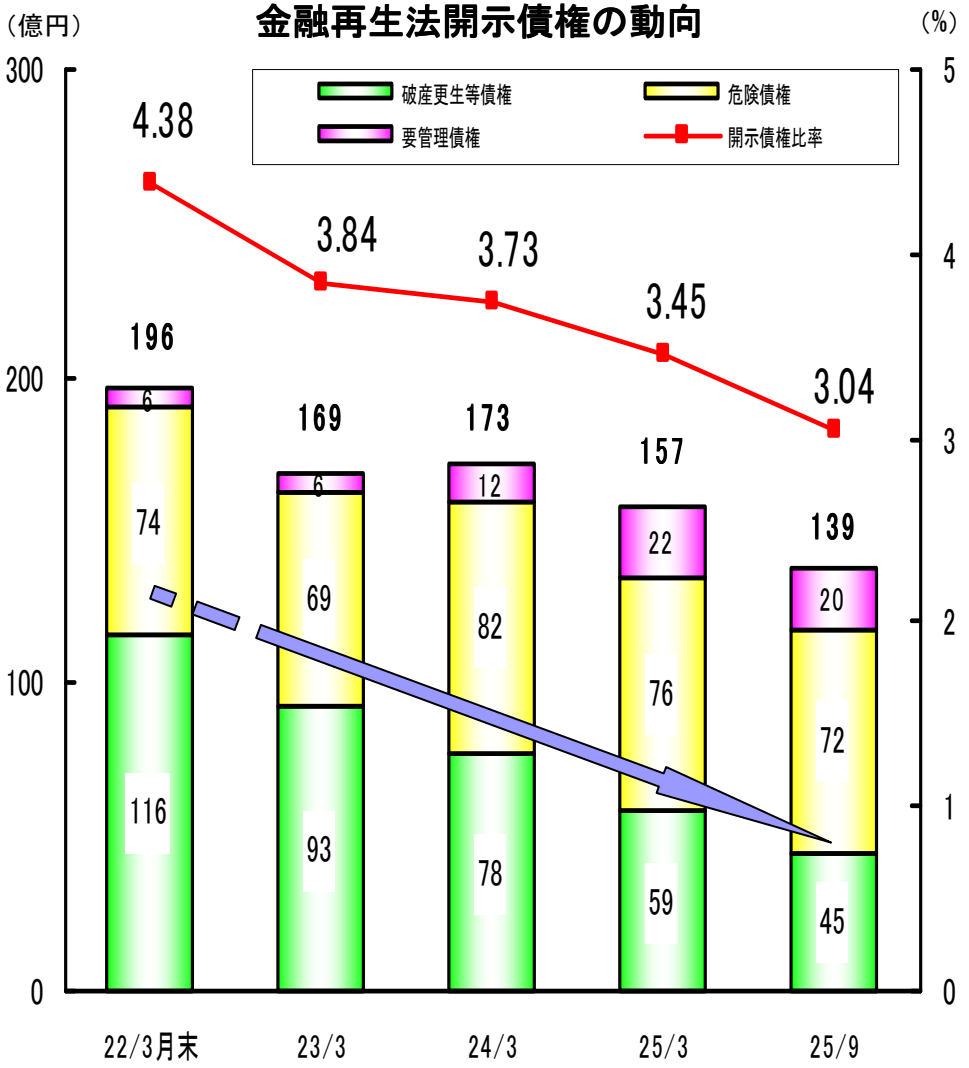
※ 金融再生法に基づき金融機関が開示を義務付けられている「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計。

金融再生法開示債権の増減要因

（単位：億円）

	24/3月期	25/3月期	25/9月期
正常債権への上方シフト	▲ 4	▲ 5	▲ 1
正常債権からの下方シフト	56	44	10
償　　却	▲ 18	▲ 14	▲ 4
売　　却	▲ 7	0	0
返済・回収	▲ 24	▲ 40	▲ 23
合　　計	3	▲ 15	▲ 18

金融再生法開示債権の動向



①**破産更生債権及びこれらに準ずる債権**･･･破産、会社更生、再生手続等により経営破綻に陥っている債務者に対する債権。
②**危険債権**･･･経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、債権元本の回収、利息の受取りができない可能性の高い債権。
③**要管理債権**･･･3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

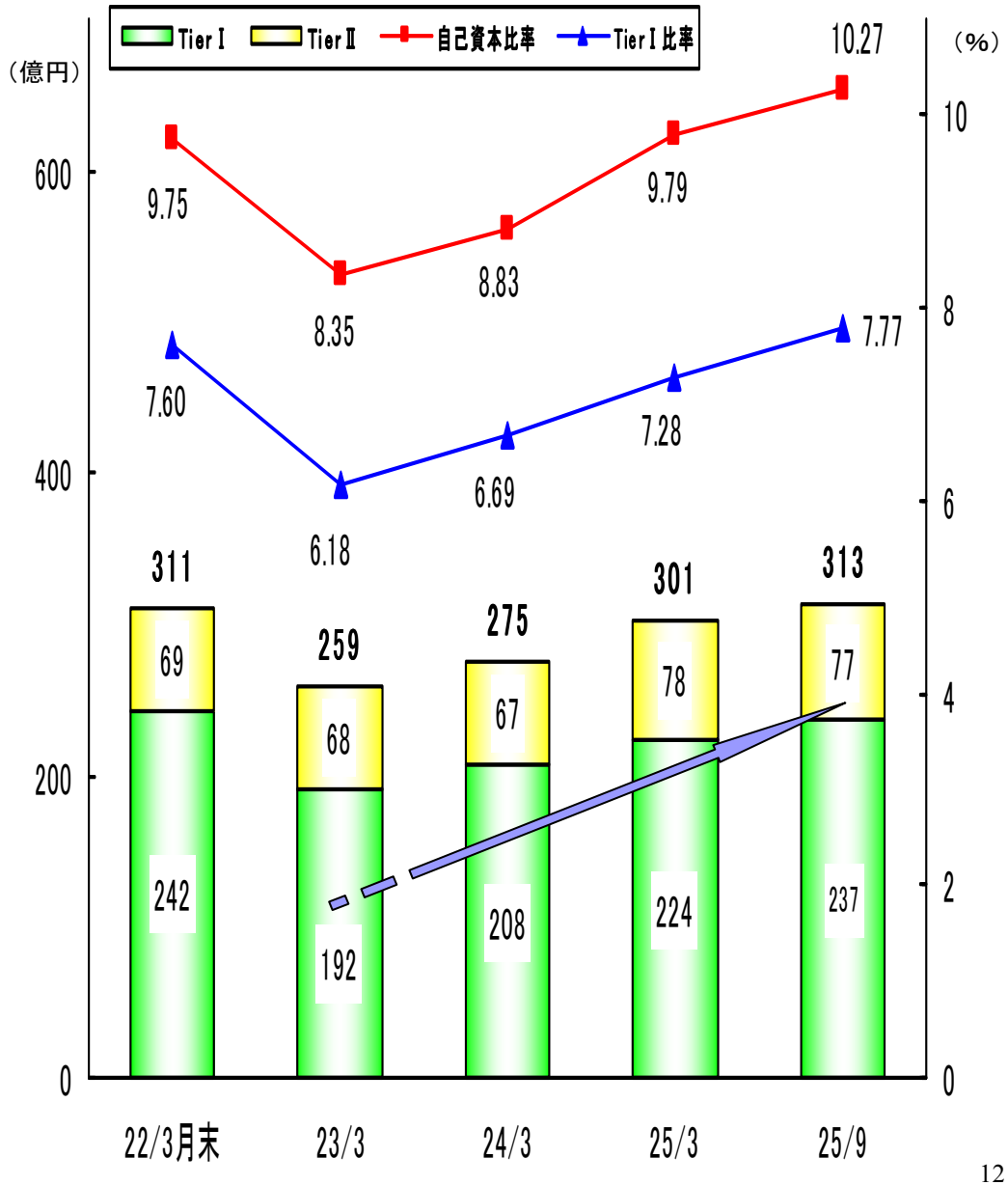
Ⅴ. 財務内容　　(2)自己資本

福島銀行

○ 自己資本比率は、単体 10．27%（3月末 9．79%）、連結 10．41% （同 9．90%）となった。

（単位：億円、%）

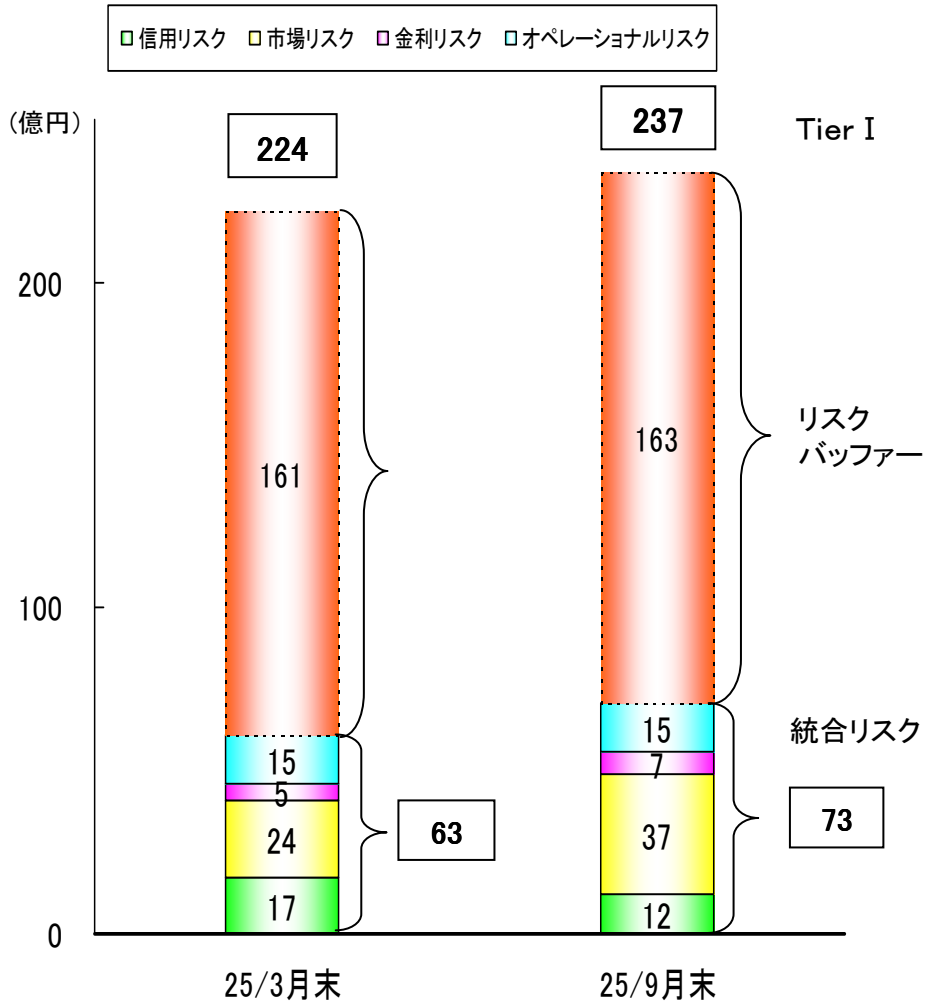
	25/9月末	25/3月末	3月末比
自己資本　A	313	301	11
Tier Ⅰ（中核的資本）	237	224	12
Tier Ⅱ（補完的資本）	77	78	▲ 0
控除項目	▲ 1	▲ 1	－
リスクアセット　B	3,049	3,082	▲ 33
信用リスクアセット	2,861	2,892	▲ 31
うち貸出	2,339	2,363	▲ 23
うち有価証券	341	342	▲ 1
オペレーショナルリスクアセット	187	189	▲ 1
単体自己資本比率　A／B	10.27	9.79	0.48
連結自己資本比率	10.41	9.90	0.51



Ⅴ. 財務内容　　(2)自己資本

福島銀行

○ 統合リスク量は 73億円で、3月末比 10億円の増加。一方、中核的自己資本(Tier Ⅰ)は 237億円と統合リスク量を大幅に上回り、営業上、自己資本面からの制約はない。
○ なお、アウトライヤー規制における銀行勘定金利リスク量は自己資本の 4．3%となった（3月末 2．2%）が、規制水準の20%を大幅に下回る状態が続いている。



(注)統合リスク量＝信用リスク、市場リスク、金利リスク、オペレーショナルリスクの単純合計。

・信用リスク、市場リスク、金利リスクはVaR(一定期間に一定確率で被り得る最大損失額)による。

VaRの計測方法－観測期間1年、信頼水準99%、保有期間は次のとおり。

信用リスク：1年（240日）
市場リスク：政策投資株式・満期保有目的債券・仕組ローン各120日、
売買目的有価証券10日、
その他有価証券60日
金利リスク：半年（120日）
平成23年3月末より、要求払預金の実質的な期間を内部モデルで推計し算出

・オペレーショナルリスクは基礎的手法（年間業務粗利益の15%）による。

Ⅵ. 今期の業績予想

福島銀行

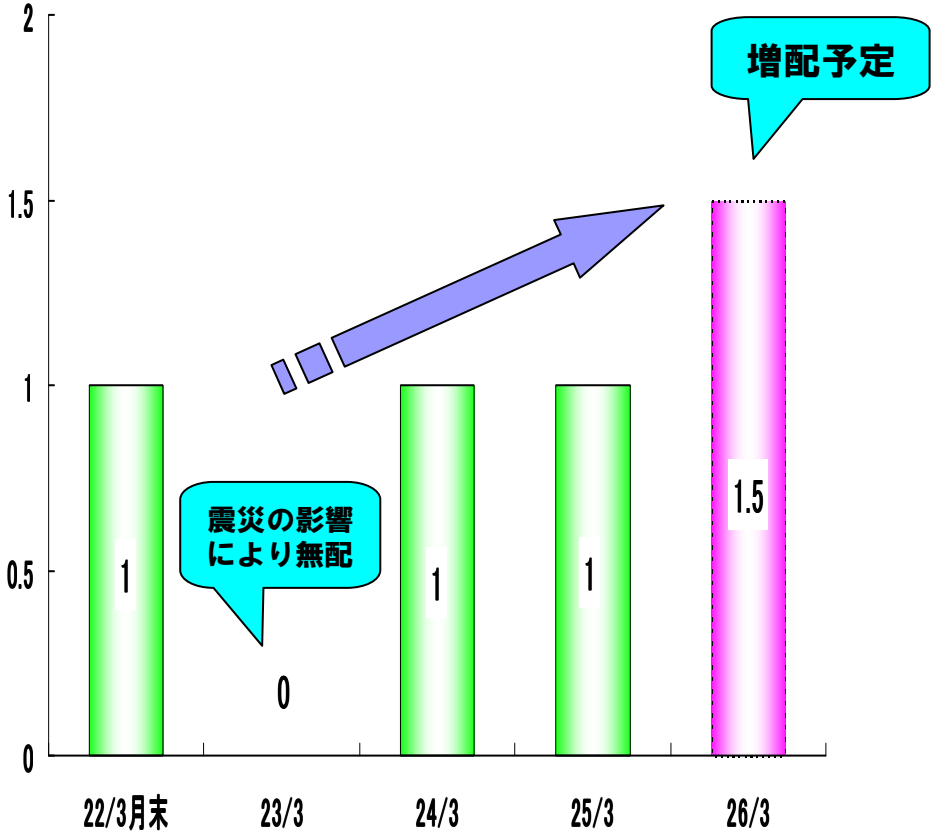
○ 26年3月期については、単体で純利益 20億円程度を予想。
　－中期経営計画「ふくぎん本気（マジ）宣言」の着実な実行により増益を予想。
○ 26年3月期の配当は0．5円増配し、1株当り年1．5円とする予定。

平成26年3月期予想

（単位：億円）

		25/3月期 実績	25/9月期 実績	26/3月期 予想
単体	経常収益	136	68	130
	経常利益	25	16	27
	純利益	17	11	20
連結	経常収益	156	78	148
	経常利益	26	17	29
	純利益	18	12	22

1株当りの配当金



福島銀行

ふくぎん　本気(マジ)宣言

（平成 24年4月～平成 27年3月）

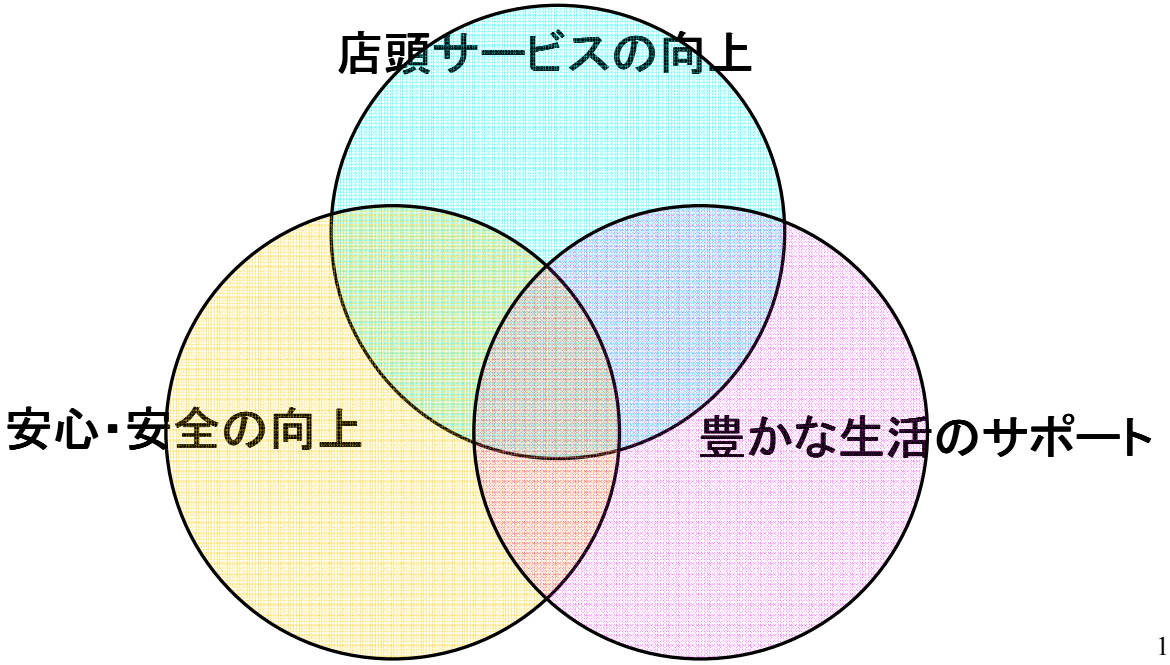
目指す姿

「真面目にがんばっている人を　真面目に応援する　真面目な銀行」

真面目にがんばっている人	人生や事業に真剣に向き合い、夢や目標の実現に向かって努力している人
真面目に応援する	お客様としっかり向き合い、真にお客様の利益を考え、お客様をサポートする
真面目な銀行	高い志と倫理観を持ち、堅実経営に徹する

基本方針

- 新しい福島創造への積極的貢献
- 「お客様本位」の徹底
- 地域のお客様との取引拡大と深化
- 安定した収益力と強固な財務基盤の実現
- 社会貢献への取組み強化



1．地域金融機関としての資金需要掘起し・創出に向けた取組み

（1）お客様の経営課題を聞き取り、その解決を支援する「提案営業」の取組みを強化 。

（2）新しい金融手法の活用

○ 資本性借入金は、24年下期 1先、25年上期 1先を実施。

2．経営改善・事業再生の推進等

（1）金融円滑化法期限到来後の対応状況

○ 円滑化法期限到来後も基本方針に変更はなく、金融円滑化に努めている。

・金融円滑化実施先の全先モニタリングを行い、現況確認とアドバイスを実施。

・改善計画の進捗が芳しくない先に対しては、債務者と一緒になって計画書の再作成の必要性や進捗していない施策の見直し検討などを行うことで業績改善を支援。

○ 円滑化法期限到来後の条件変更実行状況（累計の実行率）

	累計実行率
25年9月末	93．2%
25年3月末	93．1%
24年3月末	93．0%

（2）外部機関との連携による再生支援

○ 東日本大震災事業者再生支援機構等外部機関を活用した上期の支援実績は10件（平成24年度中14件）。

（3）経営革新等支援機関としての実績

○ 33先の事業計画の作成を支援。このうち、地域需要創造型等企業・促進事業に4件、ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金に12件が採択されたほか、経営力強化保証に7件の計画が認定。

3. 経営支援

（1）成長マネーの供給

○ 再生可能エネルギー発電関連資金として、上期中13件、約2億7千万円の融資を実行。
○ 福島県企業立地補助金交付先に対して、上期中10件、約5億5千万円の融資を実行。
○ グループ補助金交付先に対して、上期中24件、約4億7千万円の融資を実行。

（2）販路拡大の支援

○ 全国に向けた販路拡大の支援のため、第二地方銀行協会加盟行共同の商談会「食の魅力発見プロジェクト2013」を東京で7月に開催し、地元企業と地域色豊かで魅力ある商品を求める買い手側との商談の場を提供。

（3）M&Aセミナーの実施

○ 中小企業において事業承継のニーズが高まっていることから、上期中に県内4か所でM&Aセミナーを開催。

◆店頭サービスの向上◆

○「サービス・ケア・アテンダント」の全店配置

高齢の方や身体の不自由な方の立場に立った丁寧なサービスや接遇を提供するため、「サービス・ケア・アテンダント」の資格取得を推進し、全営業店に配置(現在資格取得者は 143名)。

◆安心・安全の向上◆

○ 窓販商品のより分かりやすい注意表示

投資信託など窓販商品のリスクや注意事項について、よりご理解いただけるよう、大きな文字で分かりやすく記載した書面で説明。

○ 窓販商品の説明にご家族の同席を推奨

高齢の方の商品理解を助けていただけるよう、投資信託など窓販商品の説明にご家族が同席して一緒に聞いていただくことを推奨。同席し、アンケートにお答えいただいた方には、図書カードを進呈。

○ 投資信託「ゆっくり検討プラン」

投資信託ついて、お申込みをされた後、もう一度ご自宅で冷静になってゆっくり考えていただく熟慮期間を設けたプランを新設。お申込み後 3日以内であれば電話にてお申込みの撤回が可能。

○ 投信アラームコール

購入された投資信託の基準価格が購入時から 20%以上下落した場合に電話でご連絡し、その後の運用方針についてご意向を確認(インターネット 投信保有のお客さまには、評価損益が ±10%、±20%、±30%を超えた場合に eメールで通知)。

◆豊かな生活のサポート◆

○ ふくぎん年金友の会「ふくカフェ」の発足

当行で公的年金をお受取りの60歳以上の方を会員とし、会員の健康で豊かな生活の実現をサポートさせていただくために年金友の会「ふくカフェ」をスタート。今月は「日帰りバスツアー」を予定。

○ 大手企業並みに充実した福利厚生サービスの提供

年金友の会の会員を対象に月額 300円(消費税別)で、全国各地のホテル・旅館等の施設や、生活サポートメニューがお得な会員価格でご利用いただけるサービスを導入。

◆ふくぎんエコ定期「みんなの尾瀬」の発売（H24/11～発売中）◆

昨年11月に、お客様と力を合わせて尾瀬の環境保護を支援する 定期預金「みんなの尾瀬」(3月末の残高の 0．01%相当額を当行が尾瀬保護財団に寄付)を発売し、現在、金利倍々キャンペーン を実施中。9月末の残高は 601億円。8月に昨年度分として約 486千円を寄付。

◆「公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金」助成（H25/9～）◆

自然環境の保全を図り、自然と人間の調和のとれた社会づくりに資することを目的として平成 4年に基金設立。これまでに、環境保全に関する実践活動や普及啓発、調査研究などを行っている 50の団体に 総額 1，176万円の助成金を贈呈。

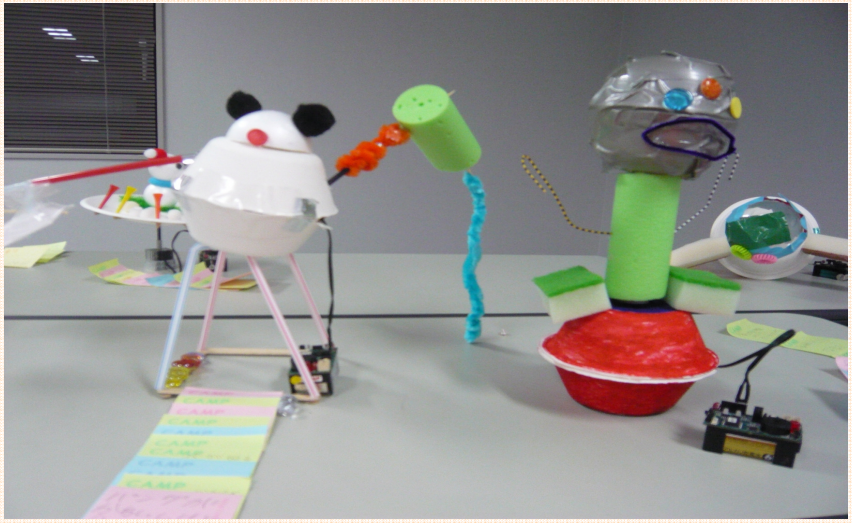
◆「ふくぎん　みんなのサポート市民活動助成金」助成（H24/10～）◆

創立90周年記念事業として、ふくしまNPOネットワークセンターと連携して福島県内で「高齢者に関する活動」「子どもの教育に関する活動」などを行っている団体に助成金を贈呈（昨年度実績 3団体合計 30万円）。

福島銀行

◆ こども向けワークショップ開催 （H25/7～）◆

子供達が楽しく体験できる動くおもちゃ作りの ワークショップを開催。前年度は県内 3地区で開催し 77名の子供達が参加。今年度は、7月の福島開催を皮切りに郡山、会津、いわき、相馬の県内 5か所で順次開催中。



写真は9月の郡山開催の様子

◆ 授産施設製品の展示即売会の支援 （H25/12 開催予定）◆

授産施設製品の展示即売会の会場として、本店地下大会議室を提供。昨年は約 40施設から 4，800点が出品され、2日間で約 77万円を売上げ。今年は12月13日（金）から3日間の開催を予定。

写真は昨年12月に開催した様子

◆ 福島わらじまつりに一般の皆さまと参加 （H25/8）◆

今回初めて一般市民の方の参加を募集し、33名の一般市民の方とともにわらじ踊りに参加。

写真は8月のわらじ踊りの様子

福島銀行

◆打上げ花火と夜景を楽しむ会の開催（H25/8）◆

福島とうろう流し打上げ花火大会に合わせ、本店12階食堂を開放。平成15年から開催し、今年で10回目（今年の来場者数は116名）。

右の写真は8月に開催した様子

◆地域文化事業への協賛（H25/8～）◆

「語り部」が、その土地の昔話を語り聞かせる文化事業に協賛。県内 4か所（喜多方、福島、いわき、郡山）で順次開催中。収録された映像を各地の教育委員会や小学校へ寄贈予定。

写真は9月の福島市民家園での開催の様子

◆集団献血の実施（年3回）◆

本店において年間 3回の集団献血を実施。

写真は10月に実施した様子

（付）営業店一覧(平成25年11月12日現在)

福島銀行

	店舗名	営業店長	電話番号
県北	本店営業部	常務執行役員 鈴木　弘志	024－525－2911
	渡利出張所	田中　良幸	024－523－3341
	山下町出張所	中島　早苗	024－531－5311
	泉出張所	南　健治	024－559－1231
	福島西支店	高萩　文彦	024－534－7158
	福島北支店	早川　貴郎	024－553－5561
	福島南支店	今村　正弘	024－545－3111
	蓬莱出張所	内野　文詠	024－548－6331
	笹谷支店	半澤　健一	024－558－1135
	岡部支店	瀬谷　照雄	024－531－8081
	大森支店	寺島　達也	024－546－5911
	八島田支店	冨永　賢治	024－558－6001
	飯坂支店	岸波　晃一郎	024－542－3251
	保原支店	山口　啓二	024－575－3101
	桑折支店	古川　和英	024－582－2207
	川俣支店	吉田　彰	024－565－2211
	二本松支店	安達　英範	0243－22－2151
県中	本宮支店	伊藤　伸一	0243－34－3161
	郡山営業部	執行役員 高野　俊哉	024－932－1500
	芳賀支店	寒河江　英一	024－956－0188
	開成支店	田中　真一	024－921－0301
	大槻支店	黒須　正雄	024－951－8500
	富久山支店	神谷　義晴	024－934－1620
	菜根支店	本名　勝幸	024－923－4500
	安積支店	上野　裕之	024－945－5530
	荒井支店	佐藤　善範	024－946－1850
	富田支店	手代木　巧成	024－952－3922
	須賀川支店	小野　英典	0248－75－2158

	店舗名	営業店長	電話番号
県南	矢吹支店	佐久間　行英	0248－42－3911
	白河支店	中谷　幸信	0248－24－1311
	船引支店	佐々木　茂雄	0247－82－1151
	石川支店	江本　裕	0247－26－2127
	棚倉支店	眞壁　孝文	0247－33－2211
	矢祭支店	猪股　徹也	0247－46－3141
会津	会津支店	稲村　修	0242－26－6311
	門田支店	小枝　政之	0242－28－5131
	猪苗代支店	大橋　徹	0242－62－2054
	喜多方支店	渡辺　吉信	0241－22－2163
浜通り	相馬支店	牛澤　秀晃	0244－35－2161
	原町支店	前野　博之	0244－23－2158
	浪江支店	小貫　博市（兼務）	※
	富岡支店		※
	四倉支店	小石沢　好勝	0246－32－4151
	平支店	佐藤　明則	0246－23－3331
	平東出張所	坂本　裕子	0246－21－5411
	内郷支店	河野　一郎	0246－26－2061
	湯本支店	富山　浩明	0246－42－2138
	小名浜支店	吉田　直人	0246－53－4101
	植田支店	草野　真之	0246－62－2151
県外	仙台支店	林　昭夫	022－223－8191
	黒磯支店	織内　康司	0287－62－1625
	水戸支店	熊坂　光幸	029－224－5606
	大宮支店	箭内　貴志	048－643－2830

※臨時窓口（福島市の本店内）の電話番号
浪江支店　024－525－2946　　富岡支店　024－525－2947

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。

～お問合わせ先～

株式会社福島銀行　経営企画室長　森　義宏
広報担当　松本　崇宏

TEL:　024-525-2525（代）
FAX:　024-536-5338
E-Mail: keiki@fukushimabank.co.jp
URL: http://www.fukushimabank.co.jp/

以　上